

知事答弁 道路ネットワークの分断は大きな損失。災害時の避難路確保や日常の渋滞解消などの観点からも、道路整備は極めて重要で、緊急性が高い。残る任期の2年間は、ミッシングリンクの解消に全力で取り組む。計画段階評価に着手した米子港湾間の高規格道路や都市計画審議会が開催される鳥取南北道路など、将来に向けた道筋を確かなものにする重要な局面であり、丁寧に仕上げていきたい。

安全・安心なまちづくりへの県の役割強化

質問 まちづくりや狭あい道路の解消に向け、今後、市町村と連携しながら県としても技術的な支援や財政的な後押しなど、より積極的に関与すべきと考えるがどうか。

知事答弁 周辺の関係者の協力が必要不可欠。国の「柔らかい区画整理事業(※)」なども始まり、本県でも適用の余地が十分にあると思っている。県として支援も行いながら、市町村と共に促進を図りたい。

※柔らかい区画整理事業：小規模・短期間・民間主導型の土地区画整理事業

広域防災拠点としての本県の使命と可能性

質問 本県は、災害リスクの相対的な低さや地理的優位性に加え、米子空港や特定利用港湾指定された境港、航空自衛隊美保基地や陸上自衛隊米子駐屯地が所在し、災害時の物資・人員のハブとなる防災インフラが集積している。令和8年度中に新設予定の「防災庁」の分庁的機能や拠点の誘致、更には災害拠点病院としての鳥取大学医学部附属病院との連携強化を通じ、本県が広域防災拠点として国民の安全・安心を支える中核を担うことを期待するが、所見を伺う。

知事答弁 自衛隊の拠点が所在し、境港も特定利用港湾に指定され、後方支援の拠点になり得る地である。また鳥取大学医学部付属病院は、今後の整備計画で災害時の拠点構想を盛り込んでいる。本県が培ってきた防災体制のノウハウも活用し、南海トラフ地震など大規模災害に備え、防災庁の分局的な組織を本県に作り、

日本海側の広域防災拠点としての役割を担っていききたい。

■人口減少社会における県政運営
若者とともに創る県政の未来

質問 人口減少と少子高齢化が急速に進む中、令和5年7月に若者の声を県政に反映させることを目的に創設された「とっとり未来創造タスクフォース」が果たしてきた役割とその評価について伺う。

知事答弁 少子化・人口減少の時代において、若者の発想を生かした政策づくりは重要。これまで多くの提案を県政に反映してきた。人材育成の観点からも意義のある取組であり、今後も継続したい。

女性に選ばれる地域づくり

質問 アンコンシヤス・バイアス(※)の解消など、女性に選ばれる地域づくりを進めるため新設された知事直轄の「男女協働未来創造本部」の設置の意図と狙いについて伺う。

知事答弁 本県の持続的な発展のため、若者とともに女性が暮らしやすく、働きやすい環境づくりは必要不可欠。本県のジェンダーギャップ指数は、全国で行政部門でトップ、経済部門も2位であるが、アンコンシヤス・バイアスの解消など、なお取り組むべき課題もある。社会全体で意識改革を進め、実効性ある取組に繋げたい。

※アンコンシヤス・バイアス：本人が気づかないうちに持っている無意識の思い込みや偏見のこと

子どもを安心して産み育てられる環境

質問 経済的・心理的負担の軽減に向け、出会いから結婚、出産、子育てまでを切れ目なく支える一貫した支援体制の更なる充実・強化が必要と考えるがどうか。

知事答弁 出会いづくりから不妊治療、産後ケアなど、全国の一歩先をいく取組を進めてきた。今後もその流れを維持しながら、切れ目のない支援体制を更に充実させていきたい。

■県民の安全・安心な暮らしの実現
共生社会の実現を目指して



質問 共生社会の実現に向け、障がいのある方々をはじめ、福祉関係者、地域住民、行政が「層連携」して取り組むことが重要と考えるが、所見を伺う。

知事答弁 本県では、国連の障害者権利条約を踏まえ、「あいサポート運動」を立ち上げ、共生社会づくりを進め、現在「あいサポーター」は国内外で70万人を超えている。今後も「あいサポーター」とりフオラム」などのように福祉関係者、地域住民、行政が連携し、共生社会への理解と実現に向けて取り組んでいきたい。

外国人材の受け入れ体制強化

質問 県内の介護分野では有効求人倍率が3倍を超える中、養成機関の廃止も相まって、人材確保は一層厳しさを増している。外国人材の活用も見据え、介護事業者や関係機関のニーズ把握と受入環境整備の充実・強化を進めるべきと考えるが所見を伺う。

知事答弁 介護人材の確保は喫緊の課題。国の育成就労制度への移行も見据え、外国人材と県内の介護施設を繋ぐ仕組みづくりにも動き始めたところ。今後、現場の声を丁寧に聞きながら、受入環境の整備と制度の改善を進めていきたい。

新体制下における治安対策強化への取組

質問 特殊詐欺など犯罪が巧妙化・多様化する中、県下の治安をどう維持し、県民の安全・安心な暮らしを守っていくのか、3月31日付で就任された青山警察本部長に伺う。

化すること、県下の治安をどう維持し、県民の安全・安心な暮らしを守っていくのか、3月31日付で就任された青山警察本部長に伺う。

■地域経済の活性化に向けて
空港の機能強化と路線の拡充

質問 米子鬼太郎空港では、ソウル便の週5便、香港便の週3便に加え、本年5月29日から台北便の定期就航が開始された。こうした国際路線の維持・拡充のための対策と、あわせて国内地方空港との新規路線開設についての考えを伺う。

知事答弁 インバウンドはもちろんアウトバウンドの需要喚起が重要。バスポート取得支援、グループ旅行や乗継ぎ利用への助成、教育旅行の促進など利用拡大を図ってきたい。また、新規路線については、関係先と協議を進めている。まずはチャーター便の就航から定期路線化につなげていければと考えている。

食料安全保障を踏まえた農業政策

質問 この度のコメ価格高騰を経験し、改めて安全・安心で美味しいお米を適正価格で食することができる価値を強く実感した。水田は単なる食料生産の場にとどまらず、国土の保全、防災や環境負荷の低減といった多面的な機能も担っている。耕作放棄地の解消も含め、水田を守る取組が地域社会の持続可能性を支えるものだと考えるが、所見を伺う。

知事答弁 水田を守ることは、地域と国土を守ることも。米価については、消費生活と生産の両方を満たす形を模索しないといけない。今回、米価のモニタリングを新たに月二回実施することによって、向もできるだけ把握できるようにした。

それも踏まえ、政府にもしつかり訴えていきたい。また、小規模な農業者向けの新しい機械導入支援や、生産効率の向上、省力化などの支援を通じ、米の安定生産と増産を後押ししていきたい。

スマート農業と担い手確保

質問 人手・担い手不足が深刻化する中、若者や女性にも選ばれる農業の実現に向け、スマート農業の推進は重要。機器導入や圃場整備などの環境整備に対し、継続的かつ十分な予算確保を図るべきと考えるがどうか。

知事答弁 スマート農業は省力化や生産性向上のために重要。圃場整備などの基盤整備や位置情報の測位のための通信設備などハードの環境整備も含め、しっかりと支援していきたい。

スポーツ振興に向けた取組

質問 8年後の令和15年に予定される国民スポーツ大会の本県開催に向け、今後の対応について伺う。

知事答弁 国のワーキンググループで現在、国スポの開催要件が検討がされている。その結果を踏まえ、市町村も含めて過大な負担とならないようにしつつ、競技力向上や、若者や子どもたちの将来に繋がる大会となるよう準備を進めたい。

拠点施設となる水泳施設の再整備

質問 通年利用が困難な県営東山水泳場と、老朽化が進む皆生市民プールの現状を踏まえ、年間を通じて利用可能な新たな屋内プール施設の整備を検討してはどうか。多数のオリンピック選手を輩出している本県の水泳競技の更なる競技力強化に加え、学校教育や県民の健康づくり、生涯スポーツの推進の観点からも重要と考えるが、所見を伺う。

知事答弁 米子市も水泳授業で民間プールの活用を進めており、屋内プールをどう整備していくかは重要な課題と認識している。近いうちに方向性が見える国民スポーツ大会の動向も踏まえ、米子市との協議を進めたい。

■教育の充実に向けて
県立高校の今後のあり方

質問 少子化の進行と来年度の県立高校授業料無償化を見据えた本県の県立高校の教育施策について、教育長の所見を伺う。

教育長答弁 県立高校は地元人材の育成・輩出という使命も担っている。ふるさとキャリア教育を通じ、その強みや特色を明確にし、中学生や保護者、地域にしっかりと伝えていくことが必要。私立高校も含め、少子化の中でも本県の未来をしっかりと支えていける人材育成に取り組んでいきたい。



鳥取大学と連携した教育人材確保

質問 昨年度は、特に小学校教諭の採用予定数150人に対し、採用者は102人にとどまるなど、教員確保が喫緊の課題。今後の安定的な人材確保に向け、鳥取大学地域学部の教員養成コースの充実を図るとともに、大学・県行政・県教育委員会の三者による連携強化を進めるべきと考える

がどうか。

知事答弁 教員確保は全県的な課題であり、鳥取大学、県教育委員会、私学関係者と連携、協働していく組織を立ち上げて、実となる具体策に繋げていきたい。

■戦後80年を迎えて

質問 本年、我が国は戦後80年の節目を迎えた。今日の平和と繁栄は、私たちにその歩みを繋いでくださった先人たちの不断の努力の積み重ねによるものであり、改めて深い敬意と感謝を表する。国際紛争や地域の分断などが懸念される現状において、平和への想いと、次世代へどう継承していくつもりか伺う。

知事答弁 この機に平和の尊さを子どもたちに伝え、次の世代へ確実に引き継いでいかなければならない。世界の恒久平和を願い、県としても記念事業「平和の祈りと誓いの集い」の開催を検討したい。

12月定例会

会期22日
12月1日～22日

一般質問

■障がい者支援の充実

障がい者のための居場所づくり

質問 障がいのある方やその家族が安心して暮らせるよう、在宅や入所施設など多様な選択肢をどのように整備していくのか今後の施策の方向性を伺う。

知事答弁 レスバイトを含むきめ細かな支援を充実させながら、施設と在宅の双方をバランスよく整えることが重要。在宅で暮らす方が多い現状を踏まえた在宅支援の強化と、施設整備の充実を両立させ、今後も現場の声を踏まえ、県の独自支援の充実・改善を進めていきたい。

※レスバイト：介護や育児など、日頃誰かの世話をしている人が休息できるよう支援すること

重度障がい者のグループホームの支援

質問 人材確保が困難な中でも、重度障がい者やその家族が安心して地域で暮ら

■人材育成・確保に向けた取組
米子工業高等専門学校(PBI)授業

質問 米子高専のPBI(※)授業に代表される「行政・学校・企業が連携した「共同教育」の取組をどう評価しているのか、また、今後の取組の充実や発展に向けた考えを伺う。

知事答弁 地元企業の課題解決に学生が主体的に取り組むことは、実践的な人材育成に繋がるとともに、学生と企業の結びつきを深める大きな意義もある。こうした共同教育の取組を高く評価しており、今後も継続・拡充に向けてしっかりと支援していきたい。

※PBI: Project Based Learningの略。文部科学省が推奨するアクティブラーニングの一つで、課題解決型学習。

産業教育手当の支給に向けて

質問 専門高校の教員の成り手不足が深刻化する中、全国で本県のみ不支給となっている産業教育手当について、安定的な教員確保のためにも支給すべきと考えるが、教育長の所見を伺う。

教育長答弁 産業界を支える人材育成のためにも専門高校の教員確保は重要。産業教育手当の予算を確保し、ぜひ支給実施につなげたい。

※産業教育手当：産業界に従事する工業・農業・水産業の専門高校教職員に支給される手当

残りは次号で
報告いたします。

